

# 官報號外 昭和十九年一月二十二日

## ○第八十四回 貴族院議事速記録第二號

○帝國議會

昭和十九年一月二十一日(金曜日)午前十時

七分開議

議事日程 第二號

昭和十九年一月二十一日

午前十時開議

第一 朝鮮ニ於ケル裁判手續簡素化ノ

爲ノ國防保安法及治安維持法ノ戰時  
特例ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別  
委員ノ選舉

第一讀會

第三 朝鮮私設鐵道補助法中改正法律  
案(政府提出)

第一讀會

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別  
委員ノ選舉

第一讀會

第五 海軍刑法及海軍軍法會議法中改  
正法律案(政府提出)

第一讀會

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別  
委員ノ選舉

第一讀會

第七 訴訟費用等臨時措置法案(政府  
提出)

第一讀會

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別  
委員ノ選舉

第一讀會

第九 會社等臨時措置法案(政府提出)

第一讀會

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別  
委員ノ選舉

第一讀會

第十一 經濟關係罰則ノ整備ニ關スル  
法律案(政府提出)

第一讀會

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特  
別委員ノ選舉

第一讀會

第十三 勞働者年金保險法中改正法律  
案(政府提出)

第一讀會

第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特  
別委員ノ選舉

第一讀會

第十五 北支那開發株式會社法及中支  
那振興株式會社法中改正法律案  
(政府提出)

第一讀會

第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特  
別委員ノ選舉

第一讀會

第十七 農林中央金庫特別融通及損失  
補償法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特  
別委員ノ選舉

第一讀會

第十九 絲價安定施設法廢止及賣絲業  
統制法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第二十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特  
別委員ノ選舉

第二十一 石炭配給統制法中改正法律  
案(政府提出)

第二十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ  
特別委員ノ選舉

第二十三 企業整備資金措置法中改正  
法律案(政府提出)

第二十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ  
特別委員ノ選舉

第二十五 船舶職員法中改正法律案  
(政府提出)

第二十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ  
特別委員ノ選舉

第二十七 簡易生命保險法中改正法律  
案(政府提出)

第二十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ  
特別委員ノ選舉

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參  
照ノタメ茲ニ載錄ス〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 他ノ諸般ノ報告  
ハ、御異議ガナケレバ朗讀ヲ省略致シタイ  
ト存ジマス、御異議ハゴザイマセヌカ  
メマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認  
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 昭和十八年十二月二十七日本院ニ於テ可決  
シタル陸海軍ニ對スル感謝決議文ハ即日之  
ヲ陸軍大臣及海軍大臣ニ送致セリ  
同月三十一日海軍次官ヨリ陸海軍ニ對スル  
本院ノ感謝決議ニ對シ左ノ謝電アリタル旨  
ノ通牒ヲ受領セリ

聯合艦隊司令長官

貴族院ノ御懇篤ナル感謝竝ニ敬弔ノ決議  
ニ接シ感激ニ堪ヘズ今ヤ戰局ハ洵ニ重且  
大ナリ聯合艦隊將兵ハ常ニ 聖旨ヲ奉體  
シ愈々必勝ノ信念ヲ固メ旺盛ナル攻擊精



會社等臨時措置法案

經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案

勞働者年金保險法中改正法律案

北支那開發株式會社法及中支那振興株式

會社法中改正法律案

農林中央金庫特別融通及損失補償法中改

正法律案

絲價安定施設法廢止及絲業絲制法中改

正法律案

石炭配給統制法中改正法律案

企業整備資金措置法中改正法律案

船舶職員法中改正法律案

簡易生命保險法中改正法律案

昨二十日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第八十四

回帝國議會政府委員仰付ケラレタル旨ノ通

牒ヲ受領セリ

大藏省所管事務政府委員

大藏書記官 福田 起夫君

池田 勇人君

平川敬一郎君

同 同 平川敬一郎君

渡邊喜久造君

同 同 松崎 健吉君

吉村 成一君

同 同 向笠 金吾君

村岡 信勝君

稻森 實君

專賣局理事

運輸通信省海運

總局總務局長

同 濱田 德海君

同 深澤 家治君

陸軍大佐 佐藤 裕雄君

運輸通信省海運 山縣 昌夫君

司法院所管事務政府委員

司法省調查官 佐藤 藤佐君

大東亞省所管事務政府委員

大東亞書記官 杉原 荒太君

軍需省部長 石川 信吾君

軍需省事務政府委員

軍需省部長 愛知 握一君

軍需省部長 渡邊 渡君

軍需省航空兵器 太田 輝君

軍需省航空兵器 大西瀧治郎君

軍需省航空兵器 太田 輝君

軍需省部長 山口 六平君

軍需省軍需官 北野 重雄君

軍需省軍需官 長沼 弘毅君

軍需省部長 同 同 松下 勇三君

鐵道監 平山 孝君

同 同 堀木 鎌三君

同 同 三浦 義男君

同 同 向笠 金吾君

同 同 岡本 忠雄君

運輸通信省海運 新谷寅三郎君

總局海運局長 山縣 昌夫君

總局船員局長 石井 敬之君

ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認

メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 是ヨリ本日ノ會

議ヲ開キマス、去ル十九日、正三位勳二等功

五級子爵松平保男君薨去セラレマシタ、誠

ニ哀悼ノ至リニ堪ヘマセヌ、就チマシテハ、

弔辭ヲ贈呈致シタイト存ジマス、御異議ハ

ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認

メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 先般開院式ニ當

リマシテハ、特ニ優渥ナル勅語ヲ賜リ、誠

ニ恐懼感激ニ堪ヘナシ次第デアリマス、私

ハ諸君ト共ニ謹ンデ聖旨ヲ奉體シ、全力ヲ

擧ゲテ、決戦下重大ナル職責ノ遂行ニ當リ、

速力ニ戰争目的ヲ達成シ、以テ聖慮ヲ安

ジ奉ラムコトヲ深ク期スルモノデアリマス、

顧ミマスレバ、大東亞戰爭勃發以來既ニ二

年有餘、皇軍將兵ハ、御稟威ノ下、愈々善謀

勇戦ヲ續ケテ居ルノデアリマス、私ハ茲ニ

諸君ト共ニ皇軍將兵ノ健闘ニ對シ、滿腔ノ

謝意ヲ表シマスルト共ニ、忠烈ナル御冥界

士ニ對シ謹シ敬弔ノ誠ヲ捧ゲ、遺族ノ方々

ニ對シ衷心ヨリ同情ノ意ヲ表シ、且戰傷

モノデアリマス、而シテ私ハ又諸君ト共ニ、

戰ヒ抜ク國民諸君ノ力鬪ニ對シマシテ、深

申出ガゴザイマシタ、許可ヲ致シテ御異議

戰ヒ抜ク國民諸君ノ力鬪ニ對シマシテ、深

ノ戰局ヲ大觀致シマスルモノデアリマス、大東亞近愈、熾烈執拗ノ度ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、而シテ彼等ハ御承知ノ如キ大損害ヲ反覆受ケテ居ルニモ拘ラズ、只管物量ヲ恃ンデ逐次基地ヲ進メ、又我ガ海上交通線ニ攻撃ヲ加ヘ、輸送ノ上ニ侮ルベカラザル影響ヲ及シテ居ルノデアリマス、此ノ深刻ナル戰局ニ對處シ、我ガ第一線將兵ハ、緒戦ニ獲得セル戰略的優位ヲ活用シ、連綿不斷、勇戰奮闘、敵ニ甚大ナル損害ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、特ニ最近「ソロモン」方面ニ於テ、「ギルバート」方面ニ於テ、又支那方面ニ於テ舉ゲツ、アル赫々タル大戰果ハ、正ニ戰史ニ其ノ比ヲ見ザルモノデアリマシテ、唯之ヲ知ラザルハ、其ノ指導者ニ依リ眼ヲ掩ハレタル米英ノ一般大衆ノミデアリマス、而シテ此ノ間、敵ノ人的戰力ニ興ヘツ、アル損害ノ如何ニ大ナルカハ特ニ注目ヲ要スル所デアリマシテ、一人克ク十人ヲ斃サズンバ已マザル皇軍將兵ノ前ニ、不逞ニモ挑戦シ來レル米英軍ノ前途タルヤ正ニ暗澹タルモノガアリ、彼等ヲ待ツモノハ唯最後ノアリマス、今ヤ學徒ハ出陣シ、徵兵適齡ハ敗北ノミデアリマス、此ノ前線將兵ノ勇戦敢鬪ニ呼應シ、一億國民ハ愈々奮起シタノデ

マスルガ、今日初メテ帝國ガ之ヲ斷行スルニ到ッタノハ、一面、敵米英ニ對シ動員上帝國ノ有スル優位ヲ示シマスルト共ニ、又一面、米英撃墜ノ斷乎タル帝國ノ決意ノ程ヲ示スモノデアリマス、一方戦力、特ニ航空戦力ノ増強ニ付キマシテハ、能ク多方面ノ困難ヲ排除シテ、一路飛躍的上昇ノ線ヲ辿リ、生産ノ現狀ハ、昨年度ニ比スレバ既ニ二倍以上ニ達シテ居ルノデアリマス、御承知ノ如ク、昨年十一月一日軍需省ガ新設セラレ、而シテ去ル十五日ニハ、航空機生産ニ關シマスル業務ニ付、陸海軍當局ヨリノ移管ヲ了シマシテ、茲ニ軍需省ハ愈々本格的ニ其ノ機能ヲ發揮スルコトトナツタノデアリマス、斯クシテ航空機増産ニ關シマスル態勢ハ愈々強化セラレ、今後ノ航空機生産ハ更ニ現状ノ數倍ニ達スル躍進ヲ期待セラル、次第デアリマス、固ヨリ戦力增强ニ關シマシテハ、苛烈ナル作戦ノ要求ニ鑑ミ、尙幾多ノソコニ工夫努力ノ要アルヲ痛感セラル、ノデアリマスルガ、嘗テ纖維工業ニ於テ短時日内ニ世界水準ヲ突破シ、世界最高ノ技能ト能率トヲ示セル我等一億ノ卓越セル資質ヲ、

スルニ於キマシテハ、航空機ノ飛躍的増産  
ハ期シテ待ツベキモノガアルノデアリマス、  
政府ト致シマシテハ、以上ノ確信ノ下ニ、  
國民諸君ト共ニ、行政查察ノ實績等ニモ照  
ラシ、不斷ノ工夫ト努力トヲ加ヘ、以テ必  
ズヤ前線ノ要望ニ應ヘテ、航空戰力ノ劃期  
的增强ヲ具現セムコトヲ固ク期スルモノニ云  
アリマス、先般來、南太平洋方面ニ於テ示  
サレタル如ク、莫大ナル犠牲ヲモ顧ミルコ  
トナク、遮二無二挑戰シ來レル戰法ヨリ見  
マスルモ、敵米英、特ニ米國ガ、口ニ長期  
戰ヲ呼號シツ、モ、内管頻リニ短期戰ヲ渴  
望シテ居リマスルコトハ明カナル所デアリ  
マス、而シテ是レ正ニ長大ナル補給路ニ  
依ラザルヲ得ザル作戰上ノ不利ハ固ヨリ、  
彼等ノ内外ニ於ケル深刻ナル苦惱不安ニ基  
クニ外ナラナイノデアリマス、即チ米國ノ  
最モ恃ミトスル軍需生産モ既ニ飽和點ニ達  
シ、資材及勞力ノ問題ヨリ、不安ハ益々深  
刻トナリツ、アルノデアリマス、一方、英  
國ハ、國力涸渇シ、疲弊ノ度愈、濃厚ナルモ  
ノガアルノデアリマス、而モ帝國ニ對シ時  
間ヲ與フルナラバ、帝國ノ體略據點ハ愈々  
セラレ、斯クシテ帝國ノ地位ハ、彼等ノ力  
鞏固トナリ、南方ノ貿易需資源ハ益々戰力化セ  
ラレ、大東亞民族ノ結束ハ彌ガ上ニモ強化

ヲ以テシテハ如何トモ爲シ得ザルニ到ルベキハ、彼等ノ當然考慮シテ居ル所デアリマス、而シテ擅ニ無名ノ師ヲ起シ、國民ヲ戰争ノ苦惱ト不滿トニ直面シテハ、當面ヲ糊塗シテ自己ノ面目ヲ保持セムガ爲ニ、無謀ノ暴舉モ之ヲ敢テセザルヲ得ナイノデアリマス、更ニ國家ノ利害關係ニ付、根本的ニ矛盾ヲ戴スル彼等聯合國ノ間ニ於テハ、是方救フベカラザルモノトナルニ先ダチ、速カニ事能ヲ收拾セムト焦慮スルハ亦當然ノコトデアリマス、今ヤ敵ハ焦ッテ居ルノデアリマス、敵ノ焦ッテ居ル今コソ、敵ヲ徹底的ニ叩イテ之ヲ破局ニ追込ムニ逸スペカラザル好機デアリマス、茲ニ於キマシテカ、帝國ハ飽くな迄モ冷靜沈着、此ノ機會ヲ捉ヘテ更ニ一段ト猛烈ニ敵ニ打擊ヲ加ヘムトシテ居ルノデアリマス、既ニ此ノ邀撃作戦ハ展開セラレゲンビル」島沖航空戦、四次ニ瓦ル「ギルバート」諸島沖航空戦ニ見マシテモ、斯クノ如キ大損害ヲ反覆被ルコトハ、假令如何ニ物量ヲ恃ム米國ニ取リマシテモ致命的ノ痛手トナルベキハ、蓋シ想像ニ難クナイ所デ

アリマス、況ヤ數萬ノ敵將兵ガ短時日ノ間ニ南溟深ク其ノ生命ヲ失ヘルヲ思ヒマスレバ、其ノ影響ノ如何ニ深刻ナルカハ、蓋シ思ヒ半バニ過ダルモノガアルノデアリマス、敵側指導者ガ、其ノ儼然タル事實ヲ前ニシテトモ誠ニ宜ナル哉デアリマス、而シテ此ノ間、敵ヲ邀撃スル皇軍ノ威力ヲ愈、偉大ナラジムルト共ニ、機ヲ逸セズ、來ルベキ攻勢作戦ヘノ切替ヲ可能ナラシムルモノハ、正ニ一億官民ヲ擧ゲテ一路邁進シツ、アル戰力、特ニ航空戰力ノ増強ニ在ルノデアリマス、固ヨリ是ト共ニ物心兩面ニ互リ、常ニ長期戰ノ構ヘヲ固ムルノ要アルハ多言ヲ要シナイ所デアリマス、而シテコニ所謂極的攻勢ノ態勢タルベキハ、亦言ヲ俟タナイ所デアリマス、之ヲ要シマスルノニ、今後ニ於ケル戰爭遂行ノ要諦ハ、敵ガ焦慮シテ總反攻シ來タル此ノ好機ヲ捕捉シテ、敵戰力ノ擊撃ヲ「ルト共ニ、手ガ體力、特ニ航空戰力ヲ飛躍的ニ増強セシメツ、物心兩面ニ亘ル長期戰ノ構ヘヲ固メ、斯クシテ更ニ攻勢ニ轉ジテ、以テ遂ニ敵ヲ屈服セシムルニ在ルノデアリマス、以上ノ戰爭遂

内ノ決戦施策ニ遺憾ナキヲ期シ、特ニ昨秋  
來、國內態勢ノ決戦化ニ付冬般ノ措置ヲ執ツ  
テ參ッタノデアリマスルガ、今後更ニ政府  
ノ力ヲ致サムトスル施策ノ重點ニ付一言致  
シタイト思ヒマス、今日前線ニ速カニ優  
秀ナル航空機ヲ十分ニ供給シ得ルヤ否ヤハ、  
勝敗ヲ決スルモノニアリマス、大量ノ航空機  
正ニ現下ノ戰局ノ大勢ヲ決シ、今後ノ戰争ノ

ト、質ノ向上、即チ生産效率ノ上昇ニ付、  
有ラユル措置ヲ講ズル所在デアリマス、量  
ノ増加ニ付キマシテハ、國民勤員ノ強化ト  
シテ更ニ國民ノ負擔ヲ增大シ、國民生活ノ  
上ニモ影響スル所妙カラザルモノガアルノ  
デアリマスルガ、政府ハ今後ノ苛烈ナル戰  
局ニ對應シ、強力ニ之ガ實行ニ當ラムコト  
ヲ期シテ居ルモノデアリマス、固ヨリ國民

特ニ萬難ヲ排シテ船舶ノ建造ヲ促進シ、更ニ陸運ヲ強化シ、以テ綜合的ニ輸送力ノ確保向上ヲ圖ッテ居ル次第デアリマス、以上ノ諸方策ト相竝ビ、食糧ノ確保ハ必勝ノ爲缺一不可也。クベカラザル要件デアリマス、政府ハ從來トモ、食糧ノ自給態勢ノ強化ニ關シマシテアリマシテ、今ヤ帝國ノ食糧ハ、國民諸君

ヲ速カニ生産スル、即チ量ト時トヘ航空戦力  
增强ノ絶對的要要求デアリマス、固ヨリ是ハ生  
易シイ業デハナイノデアリマスルガ、必勝ノ爲  
ニハ何トシテデモ之ヲ完遂シナケレバナラ  
ナイノデアリマス、先程モ申述べマシタル  
如ク、政府ト致シマシテハ、國民諸君ト共ニ、  
確信ヲ以テ之ガ必成ヲ期スルモノデアリマ  
ス、而シテ戰力增强、特ニ航空戰力ノ增强  
ノ爲ニハ、鐵、金屬、石炭其ノ他ノ重要  
軍需物資ノ増產ト共ニ、國民勤勞ノ强化、  
又海陸輸送力ノ確保向上ガ、根本的要件ト認  
メラレルノデアリマス、重要軍需物資ノ增  
產ニ付キマシテハ、政府ハ作戰上ノ要求ニ  
對應シ、劃期的ナル増產計畫ノ下ニ、之ガ  
實現ニ萬遺憾ナキヲ期シ、渾身ノ努力ヲ致  
シテ居ル次第デアリマス、之ニ伴ヒ國民勤

諸君ハ、此ノ緊急ナル國家ノ要求ニ對シ、  
欣然トシテ之ニ應ゼラルベキコトヲ、私ハ  
固ク信ジテ疑ハザルモノデアリマス、又質  
ノ向上ニ付キマシテハ、各方面ニ瓦リ尙幾  
多ノ改善向上ノ餘地アルヲ認メラレテ居ル  
ノデアリマシテ、政府ト致シマシテハ、之  
ガ指導ニ更ニ一段ノ力ヲ加フルト共ニ、各  
方面ニ於ケル當事者ノ此ノ點ニ關スル一層  
ノ工夫ト努力トニ依リ、萬遺憾ナキヲ期ス  
ルモノデアリマス、海陸輸送力ノ確保向上  
ニ付キマシテハ、今ヤ海上輸送ノ上ニ於テ  
被リツ、アル損害ハ、蓋シ輕視スペカラザ  
ルモノガアルノデアリマス、此ノ際、海空  
ヨリスル護衛ノ強化ニ依リ、船舶ノ損耗ヲ  
極力減少致シマスルト共ニ、政府ト致シマ  
シテハ、輸送船、乗組員、稼航率、荷揚能  
率等、各般ノ問題ニ瓦リ緊急ノ對策ヲ講ジ、

ノ努力ニ依リ、米穀ニ加フルニ、特ニ麥芋類等ヲ割期的ニ増産シ、更ニ満洲國ノ非常ナル協力ニ依ッテ、今後飢ガ如何ニ長期ニ亘シタノデアリマス、皇國農村ノ傳統ノ醸風美俗ノ下、老若男女ヲ問ハズ、相倚リ相扶ケ、幾多ノ困難ヲ突破シテ、孜々トシテ食糧増産ニ挺身シテ居リマスル農村ノ方々ノ御努力ハ、誠ニ感銘ニ堪ヘザル所デアリマス、御ヨリ戰時下、特ニ此ノ戰爭が長期トナルニ伴ヒ、食糧ノ確保ガ如何ニ重大ナル問題デアルカハ、戰史特ニ第一次歐洲大戰ノ史化ニ今後更ニ意ヲ用ヒ、愈、食糧自給ノ強化ヲ圖ラムトスルモノデアリマシガ、此ノ點

ニ關シマシテハ、此ノ上トモ國民諸君ノ協力ヲ強ク期待スルモノデアリマス、尙戰局ノ進展ニ對處シ、租稅及國民貯蓄ノ增强ヲ圖ルハ固ヨリ、產業資金ノ效率的使用ヲ圖ルノ要特ニ切ナルモノガアルノデアリマシテ、政府ト致シマシテハ、國民諸君ノ協力ノ下ニ、之ガ成果獲得ニ萬全ヲ期スル次第アリマス、以上ノ施策ニ竝行シ、官吏服務ノ決戰化ハ、萬般ノ施策ノ根本的前提ヲ成スモノデアリマス、曠古ノ重大戰局ニ鑑ミ、今ヤ我々官吏ノ職責遂行ノ如何ハ、直チニ國民ノ志氣ニ反映シ、國民ノ活動ヲ左右シ、戰爭遂行ニ至大ノ影響ヲ及スノデアリマス、此ノ秋ニ當リ特ニ戰時官吏服務令ノ御制定公布ヲ見、戰時下ニ處スル官吏ノ道ニ付明示セラル、所ガアッタノデアリマスルガ、此ノ際我々官吏ハ、愈々内ニ省ミ、切磋琢磨、本勅令ニ示サレタル所ヲ拳々服膺シ、以テ戰時下ノ御奉公ニ些カノ遺憾ナカラムコトヲ固ク期シテ居ル次第アリマス、戰爭遂行ノ要諦ト、之ニ基ク政府ノ國內施策ノ要點ハ以上ノ通リデアリマスルガ、茲ニ私ノ特ニ強調致サムトスルモノハ、我等一億國民ニ一貫シテ流ル、必勝ノ信念デアリマス、大東亞戰爭究極ノ勝利獲得ノ確信デアリマス、申ス迄モナク戰爭

ハ畢竟意志ト意志トノ戰ヒデアリマス、今  
ヤ世界ノ列強ハ國力ヲ擧ゲテ戰フコト茲ニ  
數年、此ノ秋ニ當リ最後ノ勝利ハ、飽ク迄  
モ最後ノ勝利ヲ固ク信ジテ鬪志ヲ繼續シタ  
モノニ歸スルノデアリマス、最後ノ勝敗ノ  
岐レ目ハ眞ニ紙一重デアリマス、今回ノ戰  
ヒニ於テモ、今後我々ニ襲ヒ掛シテ來ル苦  
難ハ、愈々深刻ナルモノガアルコトヲ覺悟  
シナケレバナラヌノデアリマス、同時ニ我  
ガ猛擊ノ前ニ、敵ノ蒙ル苦惱ノ更ニ増大ス  
ルコトハ固ヨリ當然デアリマス、斯クシテ敵味  
方雙方共疲レニ疲レ果テタ末、必勝ノ信念ニ  
動搖ヲ來シ、鬪志ヲ一步デモ早ク失ッタ方が參  
ルト云フ過程ヲ辿ルベキハ、當然豫想セラ  
ル、所デアリマス、此ノ點ニ於テ世界ニ冠  
タル國體ヲ有シ、絶對不敗ノ帝國ニ敵對シ  
來タル國々コソ誠ニ憐レムベキモノデアリ  
マス、三千年來彌榮エニ榮エマス皇室ヲ戴  
ク大和民族ノ盡忠報國ノ精神力ハ萬邦無比  
デアリマス、而シテ自存自衛ノ爲已ムニ已  
マレズシテ起チ上ツタ此ノ大東亞戰爭ニ  
テ、此ノ力ハ何物ヲモ燒キ盡サズムバ止マザ  
ル勢ヲ以テ進ンデ居ルノデアリマス、危險  
ガ身近ニ迫レバ迫ル程、困難ガ眼前ニ積レ  
バ積ル程、我等一億國民ノ精神力ハ熾烈ト  
ナツテ居ルノデアリマス、曩ニ「アツツ」島ニ

於テ、而シテ最近「タラワ」、「マキン」兩島ニ  
於テ、我ガ勇士ハ寡兵克ク數倍十數倍ノ  
敵ヲ殲シテ玉碎シテ居ルノデアリマス、是  
等ノ勇士ハ、我々一億國民ニ代ツテ大和民  
族ノ精神力ガ如何ナルモノデアルカヲ嚴カ  
ニ敵ニ示シテ居ルノデアリマス、而モ是等  
ノ勇士ト何等異ル所ナキ偉烈ヲ遺サレテ居  
ル忠烈ノ將士ノ、數知レザルモノガアルコ  
トヲ、我々ハ忘ル、コトガ出來ナイノデア  
リマス、誠ニ鬼神ヲ哭カシムル此ノ偉大ナ  
ル精神力コソ、我々一億國民ニ脈々トシテ  
流レテ居ル底力デアリマス、此ノ世界ニ類  
ヲ見ザル精神力アレバコソ、我々ハ必ズヤ  
此ノ正義ノ戰ヒノ究極ノ勝利ヲ獲得スルコ  
トガ出來ルノデアリマス、敵ガ内心恐レヲ  
爲シテ居ルノモ實ニ我々ノ此ノ精神力ナノ  
デアリマス、此ノ偉大ナル精神力ノ上ニ立  
チ、而シテ前ニ申述ヘマシタル諸方策ノ實行  
ニ依ツテ劃期的戰力ノ増強ヲ圖ル時、茲ニ  
我々ノ前述ニハ唯最後ノ勝利アルノミデア  
リマス、翻ツテ大東亞ノ情勢ヲ觀マスルニ、  
昨年十一月、大東亞會議ノ開催セラレマシ  
タコトハ御承知ノ通リデアリマス、大東亞  
戰爭完遂、大東亞建設完成ノ途上ニ於キマ  
シテ、劃期的盛事シテ此ノ大會議ガ開催  
セラレ、各國ヲ代表スル責任アル指導者自

ラガ親シク一堂ニ相集ヒ、親睦明朗ナル霽  
雨氣ノ下ニ、公然ト大東亞ノ將來ヲ議シ、  
共同ノ決意ニ到達シタノデアリマス、即チ  
大東亞各國ハ、共存共榮、獨立親和、文化昂  
揚、經濟發展、世界進進貢獻ノ五原則ノ下  
ニ、大東亞戰爭ヲ完遂シ、大東亞ヲ建設シ、  
以テ世界平和ノ確立ニ寄與セムコトヲ堂々  
宣言致シタノデアリマス、惟フニ大東亞共同宣言  
言コソハ、我ガ驕國ノ大理想方正ニ大東亞  
諸民族ノ理想ト相合致スルヲ示スモノデア  
リ、而シテ其ノ全東亞人ノ共同ノ心ヲ最モ  
嚴カニ全世界ニ闡明シタルモノニ外ナラナ  
イノデアリマス、今ヤ大東亞十億ノ民族ハ、  
愈々提携ヲ密ニシ、必ズ東亞ノ侵略者、共  
同ノ宿敵米英ヲ完全ニ却ケ、道義ニ基ク大  
東亞ヲ建設シ、世界平和ニ寄與セムコトヲ  
固ク期シテ、獻身的努力ヲ致シテ居ルノデ  
アリマス、此ノ間ニ於ケル大東亞諸民族ノ  
帝國ニ對スル心カラナル協力ニ對シマシテ  
ハ、誠ニ感激ニ堪ヘザル所デアリマシテ、  
此ノ機會ニ於キマシテ、私ハ諸君ト共ニ大  
東亞諸民族ニ對シマシテ深甚ナル謝意ヲ表  
スルモノデアリマス、今ヤ日滿一德一心ノ  
紐帶ハ愈々固ク、而モ昨年日華同盟條約及び  
締結ヲ始メ、「ビルマ」國及ビ「フィリピン」

國ノ獨立等ガ相次イデ行ヘレタノデアリマス、又「マライ」、「スマトラ」、「ジャワ」、  
「ボルネオ」、「セレベス」等ニ於ケル原住民ノ政治參與モ著々トシテ具現セラレ、原住  
亞諸國家ノ指導者ハ、敵側ノ惡辣ナル謀略ト手段ヲ擇バザル惆悵トニ拘ラズ、敢然ト  
シテ之ニ抗シツ、能ク大局ヲ達觀シ、率先其ノ國民ヲ指導シ、國民亦有ラユル苦難ニ  
耐ヘテ一路最後ノ勝利ニ向ッテ邁進致シテ居ルノデアリマス、最近ニ至リ、米英ハ大  
東亞各地域ニ於ケル都市ノ非軍事施設ヲ盲爆シ、無辜ノ民衆ヲ殺傷致シテ居ルノデア  
リマス、此ノ敵ノ非人道的ナル行爲ニ基キ生命ヲ奪ハレ、家ヲ失ヘル幾多ノ大東亞ノ  
民衆ニ對シマシテハ、私ハ衷心ヨリ同情ノ意ヲ表シマスルト共ニ、敢然トシテ此ノ苦  
境ヲ突破シツ、アル大東亞ノ民衆ニ對シマ  
シテ心カラナル敬意ヲ表スルモノデアリマ  
ス、此ノ憎ムベキ敵ノ暴狀ハ、正ニ天人俱ニ  
容スペカラザル所デアリマス、遠カラズ帝  
國ハ之ニ對シ斷乎報復膺懲ノ鐵槌ヲ下サム  
トスルモノデアリマス、帝國ノ此ノ斷乎タ  
ル決意コソ、米英ノ大衆ノ以テ肝ニ銘ス  
ベキ所デアリマス、今ヤ大東亞十億民族

ノ結束ハ、日ニシテ強化セラレ、大東亜解放、大東亜建設ノ大事業ハ、著々トシテ其ノ巨歩ヲ進メテ居ルノデアリマス、此ノ秋ニ當リ、今ニ及シテ敵米英ガ重慶ヲ誘ヒ、「カイロ」ニ於テ彼等ノ今後ノ方途ヲ議スルガ如キハ、既ニ米英ト重慶トノ精神的連繫ノ破綻ヲ暴露スルモノニ外ナラナイノデアリマス、即チ自主獨立、永久友好ノ日華本然ノ關係ニ立チ還レル新事態ニ直面シ、今ヤ抗日名目ヲ失ヘル重慶政權下ノ民衆ノ、新シキ動向ニ眼ヲ掩ヒ得ザル敵米英トシテハ、猶未ダ迷夢ヨリ醒メズ、依然トシテ從來ノ行縣リニ拘泥スル重慶指導者ヲ懷柔スル外ニハ、最早何等施スベキ術ハ無イノデアリマス、而シテ「カイロ」會談ニ依ツテ重慶政權下ノ民衆ノ得タルモノハ、遂ニ傍ナキ夢物語ト、内容ナキ援助ノ約束ノミデアリ、之ニ依ツテ自ラノ身ニ襲ヒ來ルモノハ、故ナキ戦争ニ依ル苦惱ノ延長ト増大ノミデ英米ハ、今ヤ雨期明ケ後、乾期既ニ半バヲ過ゲルモ、未ダニ何等爲ス所ヲ知ラズ、斯シテ居ルノデアリマス、又敵米英ノ説ク理想人道ノ、如何ニ空虚デアリ不信ナルカハ、

現ニ英人ノ支配下ニ在ル諸民族ニ對シ、將又米人ノ支配下ニ在ル黒人ニ對スル、彼等ノ爲ス所ニ徵スレバ、極メテ明白ナルモノガアルノデアリマス、抑、人種的差別ヲ撤廢シ、萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニセムトスルハ、我亞細亞人ノ多年ノ宿望デアリ、永遠ノ理想デアリマス、然ルニ敵米英ハ、他民族ノ奴隸化ニ依ツテ、專ラ自己ノミノ繁榮ヲ圖ラムトシテ居ルノデアリマス、而シテ東亞ニ於テ彼等ノ企圖スル所ハ、現ニ築キ上ダラレツ、アル新シキ大東亞ヲ、再ビ之ヲ舊態ニ引戻シ、以テ專ラ彼等ノ搾取スル虐ゲラレタル東亞タラシメトスルニ外ナラナイノデアリマス、是レ我等ノ理想ト天地霽壤ノ差ノアル所デアリマシテ、我々大東亞十億民族ノ決シテ宏認シ得ザル所デアリマス、殊ニ「インド」ノ大衆が依然トシテ英米ノ暴力ノ前ニ塗炭ノ苦シミヲ重ネテ居リマスルコトハ、誠ニ同情ニ堪ヘナイ所デアリマス、今ヤ「インド」解放ハ我々十億ノ抑ヘムトスルモ抑ヘ得ザル熱情デアリマス、既ニ「スバス・チャンドラ・ボース」氏ヲ首班トシテ幾多ノ「インド」ノ志士ハ、「インド」獨立ノ爲ニ起立ッタノデアリマス、而シテ曩ニ自由「インド」假政府首班「ボース」氏ヲ大東亞會議ニ迎ヘ、其ノ席上ニ於テ、帝國ハ「イン

ド 獨立ノ第一階梯トシテ、皇軍ノ占領下ニアル「アシダマン」諸島及ビ「ニコバル」諸島ヲ近ク自由「インド」假政府ニ歸屬セシムルノ用意アル旨ヲ闡明致シマシタルコトヘ、御承知ノ通リデアリマス、爾來「スバス・チャンドラ・ボース」氏指導ノ下ニ、「インド」ノ自由ト獨立トヲ獲得セムトスル世紀ノ大事業ハ、著々トシテ進捗シツ、アルノデアリマス、既ニ精神的ニ、飽クナキ英米ヨリ離反セル「インド」四億ノ民衆ハ、此ノ正義ノ大運動ニ機ヲ逸セズ呼應セムト致シテ居ルノデアリマス、今ヤ此ノ運動ノ進展ニ伴ヒ、「インド」民衆ノ桎梏離脱、獨立蹶起ノ勢ハ、正ニ全「インド」ヲ蔽ハムト致シテ居ルノデアリマス、斯クシテ愈、「インド」ニ於テ自由「インド」假政府ノ大旆ノ進メラレル日モ遠カラザルコトヲ期待サレルノデアリマス、之ニ對シ帝國ハ、大東亞ノ諸國家ト共ニ、「インド」解放ノ爲更ニ實力ヲ以テ積極的ナル援助ヲ送ルモノナルコトヲ、茲ニ重ネテ中外ニ闡明スル次第デアリマス、轉ジテ歐洲ノ情勢ヲ見マスルニ、我ガ盟邦「ドイツ」ハ、幾多ノ波瀾ノ眞只中ニ磐石ノ構ヘラ布イテ、一路米英ノ撃摧ニ邁進致シテ居ルノデアリマス、「ドイツ」ノ嘗メ來レル苦難ノ程ハ、我々ノ察スルニ餘リアル

所デアリマス、而モ「ドイツ」ハ、國ヲ擧ゲテ能ク之ヲ克服シテ、戰意愈々揚リ、飽ク迄モ究極ノ勝利ヲ固ク信ジテ、敵鬪ヲ續ケテ居ラル、ノデアリマス、而シテ今ヤ幾多ノ試練ヲ重ネ、來ルベキ一大決戰ニ備ヘテ、其ノ最モ得意トスル陸上決戰ニ於テ米英軍ニ痛撃ヲ浴セ、敵ヲシテ再び起ツ能ハザラシメムト致シテ居ルノデアリマス、遠カラズシテ起ルベキ此ノ「ドイツ」軍ノ縱横ノ活躍コソ、正ニ刮目シテ待ツベキモノガアルノデアリマス、今ヤ日獨兩國ハ崇高ナル道義ニ基ク世界ノ新秩序建設ニ付、終始渝ラザル相互信賴ト、共同ノ敵米英トノ戰ヒニ於テ流サレタル將兵ノ血ニ依リ、不可分ノ一體ヲ成シテ居ルノデアリマス、斯クシテ日獨ノ提携、特ニ其ノ精神的提携ハ、戰局ノ苛烈トナルニ伴ヒ益、緊密ノ度ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、又「ムッソリーニ」統帥ノ強力ナルシテ居ルノデアリマス、茲ニ私ハ諸君ト共ニ、「ドイツ」ヲ中軸トスル歐洲盟邦諸國ノ健闘ニ對シマシテ、滿腔ノ敬意ヲ表シマスルト共ニ此ノ上トモ、提携ヲ更ニ緊密ニシ、東西相呼應シテ米英ヲ擊摧シ、以テ共同ノ使

命ヲ達成セムコトヲ改メテ間ク期スルモ  
ノデアリマス、以上、重大戦局ニ臨ミマス  
ル政府ノ所信ヲ披瀝致シタノデアリマスル  
ガ、ドウカ諸君ニ於カレマシテハ政府ノ決意  
ヲ篤ト御了解ヲ賜リ、此ノ上トモ愈々心カラ  
ナル御協力ヲ賜リマスルト共ニ、今回政府  
提出ノ豫算案、法律案ニ付キマシテ、何卒  
切望スル次第デアリマス、終リ(拍手)  
○議長(伯爵松平頼壽君) 重光外務大臣  
〔國務大臣重光葵君演壇ニ登ル〕  
○國務大臣(重光葵君) 不肖、昨年四月端  
ラズモ帝國ノ外政擔當ノ重任ヲ拜シマシテ、  
本日茲ニ帝國政府ノ外交方針ニ付所見ヲ開  
陳スルノ機會ヲ得マシタコトハ、私ノ最モ  
光榮トスル所デゴザイマス、戰局ハ、御承知  
ノ通り益々深刻トナリ、米英ハ昨年來ノ反  
攻ニ依ツテ、漸ク東西樞軸防衛ノ外郭ニ接觸  
スルニ至リマシタ、彼等ハ此ノ上自力ノミ  
ヲ以テ進攻スルノ困難ナルヲ感ジ、如何ナ  
ル犠牲ヲ拂ツテモ必要ナル他國ノ力ヲ借ラ  
ムトスルニ至リ、之ガ爲ニ大東亜會議ト前  
後シテ「モスコ」ニ相會シ、更ニ「カイロ」  
及ビ「テヘラン」ニ到ツテ彼等ハ協議ヲ致シ  
タノデゴザイマス、彼等ハ茲ニ西、歐洲大  
要塞ニ對シ、又東、帝國ニ對シテ、速カニ

總反撃ニ出ツルコトニ決シタ模様デアリマス、是ガ本年ニ於ケル彼等ノ企圖デゴザイモ加ヘマシテ「カイロ」會議ヲ開キ、帝國ニ對シ假借ナク攻撃ヲ加ヘ、無條件降伏ヲ強要スベシト稱シ、本土以外ノ帝國ノ領域ハ、悉ク之ヲ奪取シテ、或ハ自己ノ領土ト爲シ、或ハ之ヲ支那ニ分チ與フベシト約シ、重慶政權ノ離脱ヲ防止セムト致シタ次第デゴザイマス、彼等ハ今日既ニ全力ヲ擧ゲテ對日總反攻ヲ實行シツ、アリト聲明致シテ居ルノデアリマスガ、今日迄彼等ノ獲得シタモノハ、我方前哨線ニ散在スル數箇ノ島嶼ニ過ギナインデアリマス、而シテ、之ガ代償トシテ支拂タモノハ、海底ニ葬リ去ラレタル多數ノ艦船、竝ニ數十萬ノ兵員デアルノデアリマス、而モ米國民ハ、何ノ爲ニ米國ノ安全トハ何等ノ關係ノ無イ東亞ノ僻地ニ於テ戰ツテ居ルノデアルカ、又戰ハネバナラヌノデアルカト云フコトヲ了解スルニ苦シシニデ居ル様子デアリマス、米國大統領ハ、其ノ政策タル「ニュー・ディール」ナルモノガ國內的ニ行詰ルヤ、之ガ打開ヲ外ニ求メムトシテ、盛ニ戰爭熱ヲ煽ツテ、國民ノ視聽ヲ強イテ國外ニ轉ジ、今ニモ米大陸ガ外敵ニ依リ襲撃侵略セラル、ガ如クニ

宣傳ヲ致シタノデアリマス、米國ノ挑發サヘナカツタナラバ、今次戰爭ハ起ラヌデ濟ンダ筈デアリマス、米大陸ノ安全ヲ脅威スルモノ何處ニモナク、米國國民ハ平和ヲ享樂シ得タルベキニモ拘ハラズ、不測ノ冒險ニ追ヒ入レラレ、不必要ニシテ高價ナル犠牲ニ甘んゼシメラレテ居ル次第デアルノデアリマス、而シテ彼ハ、恰モ世界ノ管理者デアリ、東亞ノ支配者デアルガ如キ行動ニ出テ、歐洲戰爭ヲ挑發シタル上ニ、擅ニ東亞ニ介入シ來ッテ、遂ニ帝國ニ對シテ所謂經濟的制裁ヲ加ヘ、更ニ進ンデ經濟戰爭ノ手段ニ訴ヘタノデアルノデアリマス、太平洋戰爭ガ、眞珠灣以前ニ既ニ米國ニ依ッテ開始セラレテ居マシタコトハ、現ニ米國政府自身ニ依リ發表セラレタ多クノ文書ニ依ッテモ明白ナ所デアルノデアリマス、斯クノ如クシテ、米國ハ植民地的戰爭ニ乗リ出シタノデアリマシテ、米國ノ戰爭ハ要スルニ政略戰爭デアリマス、蓋シ右ハ米國ガ全世界ニ瓦リ、英國ニ代リ世界制霸ノ基礎ヲ固メムトシツ、アル點ヨリ見テモ明カナ事實デゴザイマス、米英ハ單ニ與國ヲ驅使セムトスルノミナラズ、有ラユル策略ト威壓トヲ弄シテ、中立國ヲ戰爭ニ引キ入レ、戰禍ノ擴大

デアリマス、「トルコ」其ノ他ニ對スル壓迫ハ、國際道義ヲ蹂躪シテ居ルモノニアッテ、一般ノ急進ヲ招イテ居ル次第デゴザイマスガ、「トルコ」ノ態度ハ變化ナク、又同様ナ脅迫ヲ蒙ッタ南米「アルゼンチン」ハ尙毅然タル態度ニ出テ居ル次第デゴザイマス、米英ノ東西ニ於ケル反攻ハ、斯クノ如クニシテ鳴物入りデ開始セラレタノデアリマスルガ、勝利ハ單ニ宣傳ヤ欺瞞ニ依ツテ得ラル、モノデハシテ微動ダモ致シテ居ラナイノデアリマス、歐洲要塞ニ於キマシテハ、「ドイツ」軍ハ必要ニ應ジテ前線ノ整理ヲ行ヒ、磐石ノ堅陣ト、萬全ノ準備トヲ以テ敵ヲ邀撃セムコトヲ期シテ居ルノデアリマス、過去ニ於テ苦キ経験ヲ有スル「ドイツ」國民ガ、「ヒットラー」總統統率ノ下ニ、一致協力シ未會有ノ試鍊ニ應ヘ、確乎タル自信ヲ示シ、終局ノ勝利ニ向テ邁進シツ、アル狀況ハ、實ニ世界史上ノ壯觀ト言ハナケレバナリマセヌ、斯クテ「ドイツ」軍ハ戰勢ヲ轉換シテ攻勢ノ機ヲ捉ヘ不屈ノ精神ヲ以テ勝利ヲ確信シ、敢闇ヲ續ムトシ、「ドイツ」國民ハ激シキ空襲ノ下ニケテ居ルノデアリマシテ、此ノ點ハ敵側スラモ承認セザルヲ得ザル事實デゴザイマス、帝國政府ハ當時「ドイツ」政府ト緊密ナル連

繫ヲ保チマシテ、軍事上ハ勿論、各般ノ問題ニ付テ有ラユル協力ヲ遂ゲツ、アル次第デゴザイマス、新「イタリー」ハ「ムッソリニ」締帥指導ノ下ニ、樞軸ノ一環トシテ再帝國及「ドイツ」トノ共同戰線ニ於キマシテ、帝國及「イタリー」ガ光輝アル將來ヲ拓キマスルコトハ、期シテ俟ベキモノガアルノデアリマス、過般「イタリー」政變後、敵側ハ頻リニ和平ノ宣傳ヲ行ヒマシテ、樞軸與國ヲ動搖セシメムト策動致シタノデアリマスルガ、是ハ彼等ノ常套手段デアルノミナラズ、彼等ノ焦躁感ヲ示ス以外ノ何物デモナイノデアリマス、歐洲ニ於ケル樞軸與國ハ、敵側ノ宣傳ニモ拘ラズ、確乎不動、共同戰爭ヲ完遂シテ居ルモノニアリマシテ、畢竟スルニ彼等ノ焦躁感ヲ示ス以外ノ何物デモナイノデアリマス、歐洲ニ於ケル敵與國ハ、敵側ノ宣傳ニモ拘ラズ、確乎不動、共同戰爭ヲ完遂セムトシツ、アルノデアリマス、太平洋方面ニ於ケル敵ノ熾烈ナル反攻ニ對シ、我が東亞保衛ノ堅陣ハ聊カモ搖イデ居ラナイノデアリマス、是ハ申ス迄モナク、御稜威ノ下、

米英ノ恃ム所ハ主トシテ物質力デアリマス、現代戰爭ニ於テ物質力ノ重要ナルコトハ否定出來マセヌ、併シナガラ勝敗ハ、帝國及「ドイツ」ガ大國トシテ其ノ實力ヲ伸張スルコトハ、東洋ニ於テ帝國ノ實力ヲ伸張スルコトト共ニ、米英ノ終始阻止セムト致ス所デアリマシテ、是ニ実施シ、支那ニ於テ門戶開放、機會均等レ即チ歐洲ニ於テハ勢力均衡政策ナルモノヲ實施シ、支那ニ於テ門戶開放、機會均等シテハ少カラズ脆弱點ヲ敵ガ有スルコトハ見逃シ難イノミナラズ、地ノ利ハ寧ロ我レニアルノデアリマス、而モ國民戰意ノ點ニ至シテハ、彼ハ到底我ガ敵デハナイノデアリマス、蓋シ我ガ必勝ノ信念ハ、數ニ非ズ又量ニ非ズ、將又地ノ利ニモ非ズシテ、實ニ人ノ和ニ在ルノデアリマス、我ガ國民ノ今日當面スルノハ、共ニ生クルカ、共ニ死スルカノ問題デアルノデアリマス、吾人ヲ促祖先ノ偉業ヲ顧ミ、皇國ノ偉大ナル將來ヲ確保セムコトヲ期スル敢闇ノ精神其ノモノデアリマス、皇國ノ光輝アル將來ハ、一億安定ヲ保チ、繁榮ヲ圖ルコトハ、彼等ヨリ之ヲ見レバ東亞ノ復興デアリ、彼等ノ退却ヲ意味スルモノニアリマス、彼等ハ過去ニ於テ、帝國ヲ利用シテ支那ヲ抑制シ、帝政「ロシア」ノ進出阻止ノ政策ニ出デ、帝國ガ强大トナルニ及シテ、我ヲ控制セムガ爲ニ、支那ヲ拉シ來シテ利用スルノ政策ヲ執ルニ至リマシタ、是ガ東亞禍亂ノ重要ナル背景ヲ茲ニ我ガ忠勇ナル陸海將兵ノ武運長久ヲ切ニ祈ルト共ニ、殉國フ英靈ニ對シ、謹シ敬弔ノ意ヲ表スルモノデゴザイマス、

米英ノ恃ム所ハ主トシテ物質力デアリマス、現代戰爭ニ於テ物質力ノ重要ナルコトハ否定出來マセヌ、併シナガラ勝敗ハ、帝國及「ドイツ」ガ大國トシテ其ノ實力ヲ伸張スルコトハ、東洋ニ於テ帝國ノ實力ヲ伸張スルコトト共ニ、米英ノ終始阻止セムト致ス所デアリマシテ、是ニ実施シ、支那ニ於テ門戶開放、機會均等シテハ少カラズ脆弱點ヲ敵ガ有スルコトハ見逃シ難イノミナラズ、地ノ利ハ寧ロ我レニアルノデアリマス、而モ國民戰意ノ點ニ至シテハ、彼ハ到底我ガ敵デハナイノデアリマス、蓋シ我ガ必勝ノ信念ハ、數ニ非ズ又量ニ非ズ、將又地ノ利ニモ非ズシテ、實ニ人ノ和ニ在ルノデアリマス、我ガ國民ノ今日當面スルノハ、共ニ生クルカ、共ニ死スルカノ問題デアルノデアリマス、吾人ヲ促祖先ノ偉業ヲ顧ミ、皇國ノ偉大ナル將來ヲ確保セムコトヲ期スル敢闇ノ精神其ノモノデアリマス、皇國ノ光輝アル將來ハ、一億安定ヲ保チ、繁榮ヲ圖ルコトハ、彼等ヨリ之ヲ見レバ東亞ノ復興デアリ、彼等ノ退却ヲ意味スルモノニアリマス、彼等ハ過去ニ於テ、帝國ヲ利用シテ支那ヲ抑制シ、帝政「ロシア」ノ進出阻止ノ政策ニ出デ、帝國ガ强大トナルニ及シテ、我ヲ控制セムガ爲ニ、支那ヲ拉シ來シテ利用スルノ政策ヲ執ルニ至リマシタ、是ガ東亞禍亂ノ重要ナル背景ヲ茲ニ我ガ忠勇ナル陸海將兵ノ武運長久ヲ切ニ祈ルト共ニ、殉國フ英靈ニ對シ、謹シ敬弔ノ意ヲ表スルモノデゴザイマス、

米英ハ實ニ帝國ノ抹殺ヲ企圖スルモノニア  
リマシテ、此ノ戰爭ガ我ガ祖國ノ興廢ヲ賭  
スル防衛ノ鬪争ナル所以デアリマス、吾人  
ニシテ半途挫折スルガ如キコトアラムカ、  
單リ帝國ノ存在ガ永久ニ否認セラレルノミ  
ナラズ、東亞モ舊態ニ復セシメラレ、自主  
獨立ヲ全ウスベキ機會ハ永遠ニ失ハレルノ  
デアリマス、實ニ今次戰爭ハ、樞軸諸國ニ  
取リマシテハ、眞ニ自存自衛ノ戰爭デアリ  
「アジア」ニ取ッテハ自主獨立ノ戰爭デアル  
ノデアリマス、帝國ハ悠久三千年ノ光輝ア  
ル歴史ヲ有シ、帝國ガ世界ノ雄邦トシテ「ア  
ジア」解放、東亞復興ノ大業ニ挺身シツ、  
アルノハ、正ニ天與ノ使命デアルノデアリ  
マス、帝國ハ志ヲ同ジウスル東亞ノ各國各  
民族ト相協力シテ、米英ノ非道ナル企圖ヲ  
斷乎粉碎セムトスルモノデゴザイマス、今次  
大戰ハ正ニ世界ノ大變動デゴザイマス、英  
國ノ世界帝國維持ヲ目的トスル對獨挑戦ニ  
始シタ戰爭ハ、獨ソ戦争ニ依ッテ其ノ様相  
愈々深刻ヲ加ヘ、右ハ「テヘラン」會議以後ノ  
世界情勢ニ遺憾ナク反映サレテ居ル次第デ  
ゴザイマス、更ニ又大東亞戰爭勃發ニ依ッ  
テ、「アジア」解放、東亞復興ノ重大ナル責義  
ガ現實ニ加シテ來タノデゴザイマス、「ア  
ジア」ガ米英ノ植民地若シクハ半植民地タル

時代ハ既ニ去リマシタ、「アジア」ヲ救フモ  
ノハ「アジア」人以外ニハアリ得ナイノデア  
リマス、米英ノ支配勢力ガ殘存スル限り、  
ナラズ、東亞モ舊態ニ復セシメラレ、自主  
獨立ヲ全ウスベキ機會ハ永遠ニ失ハレルノ  
デゴザイマス、過去ニ於テ日支兩國間ニ幾  
多ノ悲シムベキ紛争ヲ見タル後、今日兩國  
ノ關係ガ永久ニ安定スル基礎ヲ見出シタノ  
モ、全ク外來ノ支配的勢力ガ一掃セラレタ  
コトニ起因スル次第デゴザイマス、支那ガ  
戰爭ニ參加ヲ致シマシテ、日支兩國間ニ基  
礎關係ガ設定セラレテ既ニ一年餘ニナリマ  
ス、其ノ間我が政策ハ著々進捗ヲ見テ、昨  
年十月ニハ同盟條約ノ締結ヲ見、兩國國交  
ハ茲ニ確乎不動ノモノトナッタノデゴザイマ  
ス、今ハ支那内部ニ於テ完全ナル和平狀態  
ノ確立セラル、コトガ、期待セラル、譯デ  
アリマスルガ、帝國トシテハ、終始一貫、  
既定ノ政策ヲ徹底セシムベク、努力ヲ致ス  
ノ確定セラル、コトガ、期待セラル、譯デ  
アリマスルガ、帝國トシテハ、終始一貫、  
既定ノ政策ヲ徹底セシムベク、努力ヲ致ス  
決意デゴザイマス、戰爭ノ進行ト共ニ、經濟  
ノ天地ニハ復興ノ機運澎湃トシテ起シテ居  
ルノデアリマシテ、獨立ノ榮譽ヲ贏チ得タ  
ラレツ、アル次第デゴザイマス、今ヤ東亞  
ノ天地ニハ復興ノ機運澎湃トシテ起シテ居  
ル「ビルマ」及ビ「フィリピン」ハ、新興ノ意  
氣ヲ以テ世界ノ進進ニ寄與セムコトヲ期シ、  
大東亞宣言ノ精神ヲ實行ニ移シテ居ル次第デ  
ゴザイマス、又多年「インド」ノ宿望タル獨  
立モ、自由「インド」假政府ノ成立ニ依ッテ其ノ  
次第デゴザイマス、帝國ト一德一心ノ關係

ニアル滿洲國ノ絶大ナル協力ハ、帝國ノ感  
謝措ク能ハザル所デアリマシテ、又東亞ノ  
有力ナル一員デアル「タイ」國トハ、既ニ開  
初メテ東亞ハ其ノ本然ノ姿ニ復歸シ得ルノ  
デゴザイマス、過去ニ於テ日支兩國間ニ幾  
多ノ悲シムベキ紛争ヲ見タル後、今日兩國  
ノ關係ガ永久ニ安定スル基礎ヲ見出シタノ  
モ、全ク外來ノ支配的勢力ガ一掃セラレタ  
コトニ起因スル次第デゴザイマス、支那ガ  
戰爭ニ參加ヲ致シマシテ、日支兩國間ニ基  
礎關係ガ設定セラレテ既ニ一年餘ニナリマ  
ス、其ノ間我が政策ハ著々進捗ヲ見テ、昨  
年十月ニハ同盟條約ノ締結ヲ見、兩國國交  
ハ茲ニ確乎不動ノモノトナッタノデゴザイマ  
ス、今ハ支那内部ニ於テ完全ナル和平狀態  
ノ確立セラル、コトガ、期待セラル、譯デ  
アリマスルガ、帝國トシテハ、終始一貫、  
既定ノ政策ヲ徹底セシムベク、努力ヲ致ス  
ノ確定セラル、コトガ、期待セラル、譯デ  
アリマスルガ、帝國トシテハ、終始一貫、  
既定ノ政策ヲ徹底セシムベク、努力ヲ致ス  
決意デゴザイマス、戰爭ノ進行ト共ニ、經濟  
ノ天地ニハ復興ノ機運澎湃トシテ起シテ居  
ルノデアリマシテ、獨立ノ榮譽ヲ贏チ得タ  
ラレツ、アル次第デゴザイマス、今ヤ東亞  
ノ天地ニハ復興ノ機運澎湃トシテ起シテ居  
ル「ビルマ」及ビ「フィリピン」ハ、新興ノ意  
氣ヲ以テ世界ノ進進ニ寄與セムコトヲ期シ、  
大東亞宣言ノ精神ヲ實行ニ移シテ居ル次第デ  
ゴザイマス、又多年「インド」ノ宿望タル獨  
立モ、自由「インド」假政府ノ成立ニ依ッテ其ノ  
次第デゴザイマス、帝國ト一德一心ノ關係

ニアル滿洲國ノ絶大ナル協力ハ、帝國ノ感  
謝措ク能ハザル所デアリマシテ、又東亞ノ  
有力ナル一員デアル「タイ」國トハ、既ニ開  
初メテ東亞ハ其ノ本然ノ姿ニ復歸シ得ルノ  
デゴザイマス、過去ニ於テ日支兩國間ニ幾  
多ノ悲シムベキ紛争ヲ見タル後、今日兩國  
ノ關係ガ永久ニ安定スル基礎ヲ見出シタノ  
モ、全ク外來ノ支配的勢力ガ一掃セラレタ  
コトニ起因スル次第デゴザイマス、支那ガ  
戰爭ニ參加ヲ致シマシテ、日支兩國間ニ基  
礎關係ガ設定セラレテ既ニ一年餘ニナリマ  
ス、其ノ間我が政策ハ著々進捗ヲ見テ、昨  
年十月ニハ同盟條約ノ締結ヲ見、兩國國交  
ハ茲ニ確乎不動ノモノトナッタノデゴザイマ  
ス、今ハ支那内部ニ於テ完全ナル和平狀態  
ノ確立セラル、コトガ、期待セラル、譯デ  
アリマスルガ、帝國トシテハ、終始一貫、  
既定ノ政策ヲ徹底セシムベク、努力ヲ致ス  
ノ確定セラル、コトガ、期待セラル、譯デ  
アリマスルガ、帝國トシテハ、終始一貫、  
既定ノ政策ヲ徹底セシムベク、努力ヲ致ス  
決意デゴザイマス、戰爭ノ進行ト共ニ、經濟  
ノ天地ニハ復興ノ機運澎湃トシテ起シテ居  
ルノデアリマシテ、獨立ノ榮譽ヲ贏チ得タ  
ラレツ、アル次第デゴザイマス、今ヤ東亞  
ノ天地ニハ復興ノ機運澎湃トシテ起シテ居  
ル「ビルマ」及ビ「フィリピン」ハ、新興ノ意  
氣ヲ以テ世界ノ進進ニ寄與セムコトヲ期シ、  
大東亞宣言ノ精神ヲ實行ニ移シテ居ル次第デ  
ゴザイマス、又多年「インド」ノ宿望タル獨  
立モ、自由「インド」假政府ノ成立ニ依ッテ其ノ  
次第デゴザイマス、帝國ト一德一心ノ關係

係ハ堅ク維持セラレテ居ル次第ゴザイマス、敵米英ハ今日頻リニ總攻擊ヲ叫ビ、歐亞ニ於ケル樞軸ノ堅陣ニ對シ攻勢ニ出デテ居ルノデアリマシテ、太平洋方面ニ於ケル反撃モ日ヲ逐ウテ熾烈ヲ加ヘテ居ル狀況デゴザイマス、斯様ナル狀況ノ下ニ、蓋シ本

朝鮮ニ於ケル裁判手續簡素化ノ爲ノ國  
防保安法及治安維持法ノ戰時特例ニ關  
スル法律案

一、裁判手續ニ關シ、全面的ニ一審制ヲ採用スルコト相成リマシタノデ、朝鮮ニ於キマシテモ、内地ノ制度ニ照應致シ、別途制令ヲ以チマシテ、内地ノ法制ト略同一内容ノ朝鮮總督府裁判所令戰時特例竝ニ朝鮮戰時刑事特別令等ヲ制定致スペク、且下手

而シテ只今上程セラレマシタ朝鮮ニ於ケル  
裁判手續簡素化ノ爲ノ國防保安法及治安維  
持法ノ戰時特例ニ關スル法律案ノ特別委員  
ノ數ヲ十五名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長  
ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

年ハ世界戰局ノ大勢ヲ決定スル重大ナル秋  
デアラウト考ヘマス、仍テ私ハ微力ヲ願ミ  
ズ、大御心ヲ體シ、外政ノ運用ニ最善ノ努  
力ヲ致ス覺悟デゴザイマス（拍手）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法ハ本法施行前第一審ノ辯論ノ終結

續中ニヨサイマヌ、然ル處  
一方國防係任  
法及治安維持法ハ、法律トシテ朝鮮ニモ施  
行セラレテ居リ、且此ノ兩法中ニハ三審制  
又規定スル条文ナガ存シテ居リマソニ、是事

○讀長(佐藤松平頼義君)  
ニ御異議ゴザイマセヌカ  
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕  
月澤子爵ノ勅諭

○議長(伯爵松平頼宣君) 是ヨリ議事日程ニ入リマス、日程第一、朝鮮ニ於ケル裁判手續簡素化ノ爲ノ國防保安法及治安維持法ニ戰時特例ニ關スル法律案、政府提出、第

國務大臣安藤紀三郎君演壇ニ登ル】  
只今上程ニ相  
度、本法ニ依リマシテ、國防保安法及治安  
維持法ニ對スル戰時特例ヲ規定シ、法律ト

讀致サセマス

〔左ノ案ハ朗讀ヲ經サルニテ参考ノ  
タメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

爲ノ國防保安法及治安維持法ノ戰時特例  
關スル法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由  
御説明致シタイト存ジマス、戰時下社會  
事ノ安寧ヲ旨スレ各重已罪ニ對ノマンテ、  
何卒御審議ノ上速力ニ御協賛アラムコトヲ  
御願ヒ致シマス

公爵山縣 有道君 侯爵四條 隆德君  
伯爵橘本 實斐君 關屋貞三郎君

右  
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十九年一月十八日

內閣總理大臣 東條 英機

内務大臣 安藤紀三郎



アリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ、本改正法律案ヲ提出致シマシタ次第、デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ海軍刑法及海軍軍法會議法中改正法律案ノ特別委員ノ數ヲ十二名トシ、其ノ委員ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、岩村司法大臣

整備ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御及刑事訴訟費用法第四條ノ旅費ハ鐵道及汽船ヲ通ズル水路ヲ除クノ外一里毎ニ一圓以内ニ於テ裁判所、豫審判事又ハ受託判事ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第四條 執達吏手數料規則第十七條ノ日付ハ證人ニ付テハ二圓以内、鑑定人ニ付テハ五圓以内、同法第十八條第一項ノ旅費ハ一里毎ニ五十錢以内、同條第二項ノ宿泊料ハ十圓以内トス

前項ニ掲タルモノヲ除クノ外執達手數料規則及大正八年法律第四十一號ニ依ル手數料及立替金ハ百分ノ百ヲ増加ス

第五條 執達吏一年間ニ收入シタル手數料ガ勅令ノ定ムル額ニ満タザルトキハ國庫ヨリ其ノ不足額ヲ支給ス

第六條 執達吏一年間ニ收入シタル手數料ガ勅令ノ定ムル額ニ満タザルトキハ國庫ヨリ其ノ不足額ヲ支給ス

第七條 株式會社ニシテ其ノ株主ノ員數ガ勅令ヲ以テ定ムル額ニ満タザルモノニ在リテハ株主總會ノ招集ハ定款ニ定アル場合ニ限リ株主ニ對スル通知ニ代へ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クベキ旨及會議ノ目的タル事項ヲ公告シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ定款ノ變更其ノ他商法第三百四十三條ニ定ムル決議ヲ要スル事項ハ定款ニ定アル場合ニ限リ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ得

第八條 株式會社ノ株主總會ノ決議ヲ要スル事項ニシテ株主ノ利害ニ重大ナル影響ヲ及ぼサザルモノニ付テハ定款ヲ以テ總會ノ決議ニ依ラザルモノトスルコトヲ得

第三條 民事訴訟費用法(他ノ法律ニ於テ準用スル場合ヲ含ム以下同ジ)第九條及刑事訴訟費用法(他ノ法律ニ於テ準用スル場合ヲ含ム以下同ジ)第二條ノ日當ハ五圓以内、民事訴訟費用法第十一條及刑事訴訟費用法第三條ノ日當ハ八十五圓以内、民事訴訟費用法第十二

右勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス  
昭和十九年一月十八日

内閣總理大臣兼陸軍大臣重需大臣  
厚生大臣小泉親彦

司法大臣岩村通世

海軍大臣鳴田繁太郎

爲サザリシコトニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年

第五條 勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第六條 會社ノ爲スベキ公告、財產目錄其ノ他ノ書類ノ謄本及抄本ノ交付並ニ信託證書其ノ他ノ書類ノ謄本ノ備置ニ付テハ機密ノ保持其ノ他公益上ノ理由ニ依リ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七條 勅令ヲ以テ定ムル會社ノ合併又ハ資本ノ減少ノ場合ニ於テ債權者ニ對シテ爲スベキ催告其ノ他ノ事項ニ付テニ依リ會社ニ非ザル法人ニ之ヲ準用ス

第八條 前五條ノ規定ハ勅令ノ定ムル所ハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
戰時終了ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案  
右  
勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス  
昭和十九年一月十八日

陸軍大臣軍需大臣兼  
厚生大臣 小泉 親彦  
司法大臣 岩村 通世  
海軍大臣 鳥田繁太郎  
運輸通信大臣 八田 嘉明  
内務大臣 安藤紀三郎  
東亞大臣 青木 一男

第九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

外務大臣 重光 葵  
農商大臣 山崎達之輔  
文部大臣 子爵岡部長景

會社ノ爲スベキ公告、財產目錄

其ノ他ノ書類ノ謄本及抄本ノ交付並ニ信託證書其ノ他ノ書類ノ謄本ノ備置ニ付テハ機密ノ保持其ノ他公益上ノ理由ニ依リ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案  
第一條 國家總動員法第十八條第一項若ハ第三項ノ規定ニ依リ設立セラレタル團體又ハ營團、金庫若ハ此等ニ準ズルモノノ役員其ノ他ノ職員ハ罰則ノ適用ニ付テハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

前項ノ團體竝ニ營團、金庫及此等ニ準ズルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社、國家總動員法其ノ他經濟ノ統制ヲ目的トスル法令ニ依リ統制若ハ統制ノ爲ニスル經營ヲ爲ス會社若ハ組合又ハ此等ニ準ズルモノノ役員其ノ他ノ職員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス前項ノ會社、組合及此等ニ準ズルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 公務員若ハ公務員タリシ者又ハ第一條若ハ第二條ノ團體、營團、金庫、會社及組合竝ニ此等ニ準ズルモノ(以下經濟團體ト稱ス)ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノノ役員其ノ他ノ職員若ハ役員其ノ他ノ職員タリシ者自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖リ重要物資ノ生產、配給又ハ消費ノ統制其ノ他經濟ノ統制ニ關スル官廳又ハ當該經濟團體ノ重要ナル祕密ニシテ職務上知得シタルモノヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第七條 經濟團體ノ行フ統制事務若ハ統制ノ爲ニスル經濟事務ヲ代行スル法人ノ役員其ノ他ノ職員又ハ人若ハ其ノ使用者ニ掲タル役員其ノ他ノ職員ト爲リタル場合ニ於テ二年以下ノ懲役ニ處ス

前條第一項ニ掲タル役員其ノ他ノ職員タリシ者其ノ在職中請託ヲ受ケテ職務

上不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ

テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第五條 第二條第一項及第三條ニ規定スル賄賂ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 「漏洩」ヲ「漏泄」ニ、「三千圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第七條 「漏洩」ヲ「漏泄」ニ、「三千圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第八條 外國爲替管理法中左ノ通改正ス

第九條 中「漏洩」ヲ「漏泄」ニ、「一千圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第十條 國家總動員法中左ノ通改正ス

第十一條 第四十六條及第四十七條削除

第十二條 國家總動員法中左ノ通改正ス

第十三條 昭和十二年法律第九十二號中左ノ通改正ス

第十四條 中「漏洩」ヲ「漏泄」ニ、「一千圓以下ノ罰金」ヲ「二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第十五條 農地開發法中左ノ通改正ス

第十六條 糜絲業統制法中左ノ通改正ス

第十七條 食糧管理法中左ノ通改正ス

第十八條 及第三十九條削除

第十九條 第六十二條及第六十三條削除

第二十條 第四十條ノ三及第四十條ノ四ヲ削除

第二十一條 第四十八條及第四十九條削除

第二十二條 酸類業團體法中左ノ通改正ス

第二十三條 第十條ノ十七及第十條ノ十八ヲ削除

第二十四條 第四十條ノ五中「第四十條ノ三第一項ニ掲クル者」ヲ「鹽業組合、鹽業組合聯

第八條 第二條第一項、第三條及第六條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

合會又ハ鹽業組合中央會ノ役員又ハ清算人ニ改メ同條ヲ第四十條ノ三トス  
第十九條 馬匹組合法中左ノ通改正ス  
第四十五條及第四十六條ヲ削リ第四十七條ヲ第四十五條トス  
第二十條 自動車交通事業法中左ノ通改正ス  
正ス  
第五十八條及第五十九條 削除  
第二十一條 貿易組合法中左ノ通改正ス  
第八十四條 削除  
第九十條及第九十一條ヲ削ル  
第九十二條中「第八十九條」ヲ「前條」ニ改メ「第九十條ニ掲タル罪ハ刑法第四條ノ例ニ」ヲ削リ同條ヲ第九十條トス  
第二十二條 海運組合法中左ノ通改正ス  
第三十六條及第三十七條ヲ削リ第三十八條ヲ第三十六條、第三十九條ヲ第三十七條トス  
第四十條ヲ削ル  
第二十三條 造船事業法中左ノ通改正ス  
第四十八條及第四十九條ヲ削リ第五十條ヲ第四十八條トシ以下第五十二條迄順次二條宛繰上グ  
第五十三條ヲ削ル  
第二十四條 貸家組合法中左ノ通改正ス  
第四十八條乃至第五十條 削除  
第二十五條 市街地信用組合法中左ノ通改正ス  
第五十六條及第五十七條 削除  
第五十八條中「第五十六條第一項ニ掲タル者」ヲ「市街地信用組合ノ組合長、理事、監事、第十四條ノ規定ニ依ル代理人又ハ清算人」ニ改ム  
第五十九條中「第五十六條第一項」ヲ

「前條」ニ改ム  
第二十六條 農業團體法中左ノ通改正ス  
第七十一條及第七十二條 削除  
第七十三條中「第四十五條」ノ下ニ「(第五十七條及第六十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加フ  
第二十七條 水產業團體法中左ノ通改正ス  
第七十三條及第七十四條 削除  
第二十八條 商工組合法中左ノ通改正ス  
第八十二條及第八十三條 削除  
第八十四條中「第八十二條ニ掲タル罪ハ刑法第四條第四條ノ例ニ」ヲ削ル  
第二十九條 本法施行前ニシタル行為ノ處罰ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
○國務大臣岩村通世君演壇ニ登ル  
國務大臣岩村通世君演壇ニ登ル  
○國務大臣(岩村通世君) 只今上程ニ相成  
リマシタ訴訟費用等臨時措置法案外二法律案ニ付テ、提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、  
戰力増強ニ振リ向ケル必要ノアルコトハ申  
ス迄モアリマセヌ、之ガ爲商法其ノ他法人  
ニ關スル諸法令ヲ研究調査シ、戰時下特ニ  
簡素化スルヲ相當ト認メマシタ事項ニ付  
マス爲ニハ、經濟犯ノ防遏ニ一層ノ努力ヲ  
致シマスルト共ニ、經濟統制ノ運用ノ中核  
ヲ爲ス官吏其ノ他ノ公務員並ニ其ノ運用ノ  
實際ヲ擔當スル經濟團體ノ役職員ノ凜職ニ  
關スル處罰規定ヲ整備シ、尙經濟ノ統制ニ  
此ノ場合ニ於ケル定款ノ變更其ノ他ノ特  
別決議ニ付定足數ノ緩和規定ヲ設ケ、又一  
般ノ株式會社ニ於テ株主ノ利害ニ重大ナル

ナリ、延イテハ決戰態勢下ニ於テ訴訟ノ促進ヲ旨トスベキニ拘ラズ、之ヲ阻碍スルノ虞モ多分ニアルト存ズルノデアリマス、仍テ今回右ノ訴訟費用、手數料等ニ付臨時ノ特例ヲ設ケテ、其ノ調整ヲ圖ル爲ニ、本案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、次ニ會社等臨時措置法案ノ提案ノ理由ヲ御説明致シマス、政府ニ於キマシテハ、曩ニ行政事務ノ簡素強化ヲ圖リ、著々其ノ實績ヲ挙げテ居ルノデアリマスルガ、民間ニ於ケル賃金等ヲ簡易ニシ、以テ勞力、費用、  
債權者ニ對シテ爲ス催告等ニ付、何レモ勅令ヲ以テ之ガ簡素化ノ特例ヲ認ムルコトヲ得ルモト致スノデアリマス、此ノ特例ノ大部分ハ、必要ニ禱限度ニ於テ會社以外ノ或種ノ法人ニモ準用シ、以テ手續ノ簡素強力化ヲ圖ル次第デアリマス、次ニ經濟關係罰則ノ整備ニ關スル法律案ニ付提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、現下ノ決戰態勢ニ即應致シマス、經濟統制ノ圓滑ナル遂行ヲ期シテ參りマス爲ニハ、經濟犯ノ防遏ニ一層ノ努力ヲ致シマスルト共ニ、經濟統制ノ運用ノ中核ヲ爲ス官吏其ノ他ノ公務員並ニ其ノ運用ノ實際ヲ擔當スル經濟團體ノ役職員ノ凜職ニ關スル處罰規定ヲ整備シ、尙經濟ノ統制ニ此ノ場合ニ於ケル定款ノ變更其ノ他ノ特別決議ニ付定足數ノ緩和規定ヲ設ケ、又一般ノ株式會社ニ於テ株主ノ利害ニ重大ナル

